

# ライフスタイル 働く

オフィスの中で固定の席を持たず、どこでも仕事ができるフリーアドレス制度。導入する企業が増える中、メリットを生かせずに見直すケースも出てきた。単に取り入れるだけでなく社員同士の交流を促すためにはどうすればよいのか。企業の失敗や専門家の助言から、コツを探った。

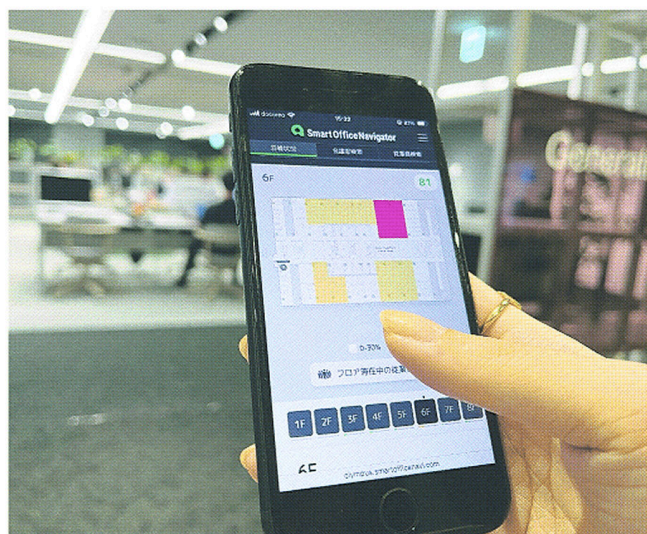
「フリーアドレスの企業で働いてみると、不便な点が多い」。4月に新卒で都内の建設会社に入社した男性(28)は嘆く。入社してで相談したいことも多いが、上司を採すのにも「苦勞する」とい。オフィス家具大手のイトキの調査によると、首都圏を中心に2021・23年度に竣工したオフィスのうち、フリーアドレスの採用率は8割だった(固定席との併用を含む)。近年、民間企業だけでなく全国の自治体でも導入が進んでいる。ただ、「失敗」を認める企業もある。「導入の機運が高まる中で、『なんちゃって導入』だった。オフィスの設計や家具

## フリーアドレス生かすには

### 目的に応じた席／同僚の位置把握



丸みを帯びた三角形のテーブルは、対向席の人の顔が見えない利点があるという(福岡市のイデックスビジネスサービス)



オリンパスが導入する「スマートオフィナビゲーター」では携帯端末からフロアの混雑状況を確認することができる

販売を手がけるイデックスビジネスサービス(福岡市)が固定席を原則廃止しフリーアドレスに変えたのは2015年ごろだった。社内コミュニケーションを活発にする狙いがあった。しかし、実際は「決まった人が決まった席を使う固定席化が目立った。パソコンの充電器を置きっぱなしにして帰る人もいた」(オフィス環境事業部副部長、村上慶一さん)。

フリーアドレス席の約6割が固定席化していたという。フリーアドレス席の約6割が「チーム内のコミュニケーションが希薄になった」(出社率が高いとき、座席席がない)。「アンケートではそんな不満が社員から漏れるようになった」。

「単に導入するのではなく、どうすればコミュニケーションが生まれる空間をつくれるのか」。24年夏、デザイナーの阿式健一さんが社員のニーズを細かく吸い上げ、レイアウトを一新した。デスクを向かい合わせる島型対向式のフリーアドレス席を減らし、ソファ席は廃止。リモート会議向けに専用のカメラを設置した場所、静かに作業したい人が使えるサイレントブース、コヒーミング近くで雑談などもできるカフェ席のようなエリア……。目的に応じた様々な種類の席を用意し、社員がいきいきと働けるようにした。

フリーアドレスから固定席にあえて変えた企業が、車の整備・修理出張を手掛けるセイビー(東京・港)だ。19年の創業時からフリーアドレス制をとっていたが、23年に原

則固定席に変更した。20人ほどだった従業員が3倍に急増したためだ。「事業部ごとに動くケースが増え、チームのまとまりを向上させる目的があった」と話すのは千村真希社長。食事や休憩ができるリーススペースも設けることで、社員間の交流も促す。

フリーアドレスを導入する場合、気を付けるべきことは何か。内田洋行のグループ会社でデザイン戦略を手掛けるパワーブレイス(東京・中央)の根岸隆常務によると、「フリーアドレスはオフィス改革の一手段にすぎない。導入の目的や目標を明確にすることが大切」と話す。

「誰がどこにいるかわからない」「会議室予約が煩雑」といったフリーアドレスの課題をICT(情報通信技術)で解決しようと取り組む企業もある。24年に本社機能を開発の拠点である八王子へ集約したオリンパスは、部門を超えた社員同士のコミュニケーション促進のため、フリーア

ドレスも同時に導入した。約8700人の従業員が所属する本社では、内田洋行の「スマートオフィナビゲーター」を使用する。WiFi電波を通して、オフィスにいる社員が持つスマホやパソコンの位置を検出。誰がどこにいるかをチェックしたり、オフィス内の席の混雑状況を調べたりできる。

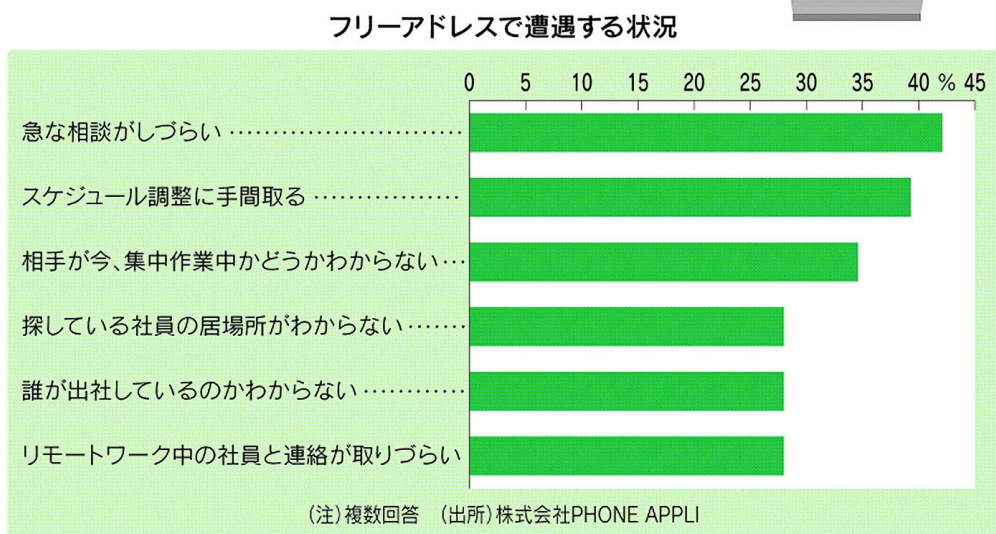
居場所のログから、社員同士の交流があるかを企業が把握することも可能だ。働き方改革推進に取り組む中村隆志さんは、こうしたデータを柔軟に活用したいと話す。

オフィスに詳しい東京大学大学院の稲水伸行准教授は、「フリーアドレスを導入して終わりでなく、柔軟に運用することが大切」と指摘する。管理部門など不向きな業務内容をまとめる。チーム単位で座席を固定する「グループアドレス」の導入や、新入社員が慣れるまでは近くに相談できる人の席を設けることもアイデアだという。

フリーアドレスで失敗しないためには

- 目的・目標を明確にし、経営層が率先して推進
- 管理職から積極的なコミュニケーション促進
- 業務内容に応じた場所の選択(会議室や集中ブースなど)
- ICTを活用して、社員がどこにいるか見える化
- 運用チームを設置し、改善サイクルをつくる
- グループアドレスの活用
- ルールとマナーの周知徹底

(注) 稲水准教授と内田洋行への取材を基に作成



### 運用ルール・マナー周知も必要

フリーアドレスは和製英語で、2000年以降インターネットや携帯電話が急速に普及し、パソコンはノート型が主流となったことで導入が進んだ。企業にとってはスペースの有効活用などのメリットがある。

ただ、民間調査では、フリーアドレスを全面的にまたは一部で導入した企業に勤める会社員の42.1%が「急な相談がしづらい」と回答した。他にも「探している社員の居場所がわからない」「誰が出社しているのかわからない」(各28%)との声も上がる。

稲水准教授によると、既存の島型対向式レイアウトを単にフリーアドレス化しただけでは、働く場所の選択肢が少ない上に自分の席が確保されていないため、心理的・身体的ストレスが増加するという。目的に応じた席を用意するなどの工夫が必要だろう。また共通ルールやマナーの周知、社員へのヒアリングも欠かせない。

(新井健太郎)